

津支店 農業経営の課題を考察 3県合同の研修会

愛知県、岐阜県、三重県合同の農業経営アドバイザー研修会を名古屋市中で開催しました。

中小企業診断士の経営支援事例の講義や国の施策の紹介のほか、岐阜県と三重県の農業経営者による事業承継に係る課題の発表や、トヨタ自動車株式会社からカイゼンの考え方を取り入れた農業の現場改善事例の紹介など、さまざまな立場の方々が登壇しました。

参加者からは、「盛りだくさんの内容でした」「県外の方々と意見交換できる貴重な機会でした」などの声が寄せられました。
12月7日、参加者：70人



事業承継について話す有限会社亀井園芸代表取締役の亀井健一氏

高知支店 高知県農業の未来へ 関係機関連携の取り組み

高知県では、税理士法人刈谷&パートナーズの刈谷敏久氏を中心に、農業者の経営発展に注力する関係団体の連携の場として、高知県農業経営サポート会議が充足。その活動として、行政機関や農業経営アドバイザー連絡協議会とも連携して勉強会を開催しました。

高知県農業の未来を見据え、「新規就農者の確保・育成」をテーマにした講演では、民間金融機関や税理士などが参加。グループディスカッションはワールドカフェ方式とし、参加者同士の対話が生まれ、盛会となりました。
1月17日、参加者：22人



グループディスカッションでは農業者の悩みを想定し、ロールプレイなどに取り組みました

盛岡支店 先進事例と行政の施策から 県産品の輸出を学ぶ

県内の農水産物輸出促進を目的とした農業経営アドバイザー向け研修会を開催しました。

第一部では、最新の凍結技術（CAS凍結）を導入した産直サイトを立ち上げた有有限会社三陸とれたて市場（大船渡市）／水産物加工販売）代表取締役の八木健一郎氏から輸出取り組み事例や課題についての講演を、第二部では東北農政局から改正輸出促進法に基づく関連施策の情報提供がありました。参加者からは「海外展開支援を通じて地域活性化を後押ししたい」などの前向きな声が寄せられました。
1月18日、参加者：23人



産地の取り組みについての具体的な話に、質疑応答も熱を帯びました

前橋支店 スマート農業の最前線から 農業経営のヒントを得る

群馬県農業法人協会と「群馬県農業経営者フォーラム」を共催。

世界有数の農業機械メーカーである株式会社クボタで特別技術顧問を務める飯田聡氏と、農業コンサルタントイングファームでもある住商アグリビジネス株式会社の氏家拓哉氏が登壇し、最新のスマート農業やコンサルティング事例の紹介がありました。

参加者からは「先進例の提示が興味深かった」「スマホ1台で管理ができる未来が来ればいい」などの声が寄せられました。
1月27日、参加者：46人（オンライン含む）



デジタル化のメリットを語るクボタの飯田氏

ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードも
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

◆冬2号を拝読した。林業業界の現状を憂う文章の波長は、私が林業にかかり始めた6年前とあまり変わっていないように感じた。自伐型林業家をめざし、脱サラして群馬の山間部に移住したが、容易には進まなかった。それでも、森林組合の林業業者として従事していたとき、自分では自然の管理人のような小さな誇りをもっていた。

写真家としても活動するなか、森の中の光を撮影するため訪れたフィンランド。1年間暮らしたラップランドで、スーパーマーケットのレジの前に積まれたおもちゃのなかに木材運搬車があった。レーシングカーや着せ替え人形などに混ざってチェーンソーを担いだフィギュアが並んでいる。フォレストワーカーは、海外ではリスベクトされる職種であると聞いた。それを眺めながら、かの土地できこりは戦隊ヒーローと同じように子どもの憧れの存在なのだろうと想像した。

卓上で数字をはじき出し、過去や、海外との数字を比較して、現況をあぶりだす行為ももちろん重要だ。だが、林業にもヒーローのような存在を育てたりする文化の形成も、必要ではないかと思った。

(群馬県中之条町 糸井潤)

おもちゃの木材運搬車



編集後記

④ 高騰している農業資材価格が一時的なものかと捉える楽観的なシナリオはもはや夢物語とも言えよう。経営に影響の大きい外部リスク変数に対していかにレジリエンスを確保できるか。その処方箋の一つとして耕畜連携への期待は大きい。さて、短い間でしたが、今号で編集部を離れることになりました。引き続き小誌をよろしくお願いします。(今村)

⑤ 『新農業人』の式地さんが牛に与えているWCS。牛にとっては大好物であり、「切り札」とのこと。寒暖差がある地域の気候を生かし、良質なコメを生産。そのコメで育てた地域の環境に適した品種の牛が品質を評価される。環境と調和することの重要性を再認識するとともに、これぞ中山間地域の持続可能な農業の理想形、と感じました。(高雄)

⑥ 「農と食の邂逅」の取材に伺いました。子牛小屋に行くと、かわいらしい子牛たちがゆったりと過ごしていました。一つのゲージに2頭いるのですが、子牛同士にも相性があり、相性が悪い場合は引き離すそうです。牛たちをよく観察して元気に育てる、生産者の方々の日々の積み重ねにより、生き物の健康が守られていると感じた一日でした。(澤田)

⑦ ベトナムへの昨年の日本酒輸出金額は前年比で約2.3倍の伸びだとか。「ぶらり食探訪」の『日本酒ハンドブック』が役立つ日は、もうすぐそこです。日本同様、米が主食で肉や魚に野菜をたっぷり合わせるベトナム料理。私たちが和食とワインを楽しむように、ベトナム料理と日本酒のオツな組み合わせを見つけてもらえたらいいですね。(竹中)

AFCフォーラム 2023.4 春1号

編集

前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子
竹中 夕美

編集協力

村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷

株式会社佐伯コミュニケーションズ

〒870-0847

大分県大分市広瀬町2-3-21

国産にこだわり

農

食

とをつなぎます

第16回
アグリフード
EXPO東京

国産農林水産物・食品の商談会

日時 2023年

8月23日(水)・24日(木)

10:00~17:00

10:00~16:00

会場

東京ビッグサイト
東4ホール



オンライン商談会

2023年

5月8日(月)~9月29日(金)

[主催]

JFC 日本政策金融公庫



[後援] 農林水産省、財務省、国税庁、中小企業庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会

[協力] (独)日本貿易振興機構、日本食品海外プロモーションセンター(JFOODO)、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、(独)中小企業基盤整備機構、(株)日本貿易保険、(公社)日本農業法人協会、(一社)日本養豚協会、(一社)日本養鶏協会、全国農業経営者協会、全国農業協同組合連合会、(一社)全国農業協同組合中央会、(一社)日本フードサービス協会、(一社)日本スーパーマーケット協会、日本チェーンストア協会、(一社)全国スーパーマーケット協会、日本ハム・ソーセージ工業協同組合、オール日本スーパーマーケット協会、農林中央金庫、(株)みずほ銀行、(株)三井住友銀行、(株)三菱UFJ銀行、野村アグリプランニング&アドバイザー(株)、アグリビジネス投資育成(株)、(一社)全国消費者団体連絡会、日本生活協同組合連合会、NPO法人 日本プロ農業総合支援機構、(株)日本農業新聞、(株)日本食糧新聞社、沖縄振興開発金融公庫